

平成29年度 近肢連 研修報告書

保育 部会

(幹事園)

藍野療育園

済生会吹田療育園

箕面市立児童発達支援事業所あいあい園

吹田市立こども発達支援センターわかたけ園

日時	平成 29 年 6 月 10 日 (土)			10:00 ~ 12:00
開催場所	箕面市立箕面文化・交流センター 8階 大会議室			
テーマ	「笑いのチカラ 今日も、明日も遊びあおう！」			
講師	堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 作業療法士 松本茂樹 氏			
参加人数	105	名	内訳	保育士71名、支援員6名、心理士1名、PT7名 OT4名、ST2名、その他4名
まとめ	<p>・作業療法(OT)は活動への参加、成功を通して、幸せを感じていただくことを目指す専門職。 ・動作ができるためには感覚が分かることが大事(たとえば箸はのせる感覚が必要)。 援助の仕方のポイント(皮膚をさするのは刺激が大きく緊張に繋がるため、手を密着させたまま援助する等)。 新聞紙を使って実際に感覚を体験してみる。動き方、感じ方を繰り返し援助し、自己有能感、自己効能感、自己肯定感に繋げる事に保育の専門性を発揮していくべき。</p> <p>・道具の工夫(自助具) 紹介・作り方の説明。 ・遊びは活動・場・人の視点で考えて提供する。 ・対象者が笑われると言う事は、「あなたが私にしてくれたことは問題ない、極めて適切である」ということの証である。真剣にふざける、遊ぶ勇気の大切さ。 ・子どもの視覚・視知覚世界の理解 (斜視、立体視、図・地判別) 子どもによって見え方が違う。子どもの様子を見ながらどうしたらいいかを考える必要がある。</p> <p>環境・課題の配慮・段階付け (動画を見ながら) ・子どもの世界、感覚や気持ちを理解する事が必要。 砂遊び(手に物がつくのは恐怖、肢体不自由児は自分でぬぐえないから口に入れる。ぬぐえることをまず教える。) 口で確かめても危なくない食材の利用。 ・ウォーターハンモック、エアークッションなど、療育に有効なアイテムや作り方の紹介。(動画や写真を見ながら) ・遊びの発達 感覚遊び、探索遊び、ごっこ遊び、ゲーム遊び、大人の遊び) その子どもの遊びの段階を知る事で、同じ遊びでもそれぞれの遊び方を提供出来る。 ・遊びは遊び遊ばれる関係性。共に楽しむというイメージが大切。 ※全体を通して具体的な事例や動画、実践的な事を取り入れて頂き、肢体不自由児の理解を深められる講義内容だった。</p>			